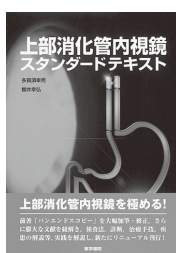


書評

〔評者〕

深井 学

医療法人財団放友クリニック／一般社団法人日本消化器内視鏡技師会理事



上部消化管内視鏡 スタンダードテキスト

多賀須幸男，櫻井 幸弘 著

B5判 頁344 2010年
定価 14,700円(本体14,000円+税5%)
[ISBN978-4-260-00369-8]医学書院刊

消化器内視鏡検査・治療の進歩は、機器の開発や手技の高度化により著しいものがある。それに伴い、検査・治療の質が向上し、成果も飛躍的に現れている。これは内視鏡医の優れた技術と研鑽、そしてメーカーの開発努力によるところが大きいと思うが、質の向上では内視鏡のスタッフとしての内視鏡技師の役割も少なからずあると思われる。内視鏡スタッフの教育では医療現場における内視鏡専門医の熱心な指導が形に現れ、消化器内視鏡学会認定の消化器内視鏡技師資格の取得者も増えている。

内視鏡スタッフの教育、指導に欠かせないのが教科書となるテキストである。ちなみに筆者が消化器内視鏡にかかわったのは昭和40年代の胃カメラの時代で、スタッフの教育・指導方法がまだ確立していなかった頃であった。そのため、多くの症例写真を見てそれをスケッチすることや解剖学、生理学の書物を読むこととその当時指導していただいた先生方から言われたことが、本書を読み進めるうちに思い出された。本書には正常写真とともに多くの症例が掲載され、さらに挿入過程や観察順序および、疾患、臓器などを図式化して説明が加えられており、間近で講義を受けているような錯覚に陥った。

序文には、「本書は、内視鏡医のための上部消化管内視鏡検査の手技・診断・治療に関する総合的なテキスト」とされている。また患者への配慮、検査・治療の介助、内視鏡機器の管理などは内視鏡技師の役割が

重要と記載されている。多賀須先生と櫻井先生は内視鏡スタッフの教育にも熱心にされてこれられ、多くの内視鏡スタッフが指導を受け、内視鏡技師として育っている。本書はその経験を基に内視鏡医のためだけではなく、内視鏡スタッフの教育・指導にも生かせるものとして編集されているような気がする。最近では内視鏡スタッフを対象とした専門書も数多く出版されているが、本書はこれまでの専門書を補完するような、詳しく実践的な内容となっている。

本書の構成は、前編は内視鏡検査全般に共通する項目からなり、内視鏡機器の原理・構造および機器の取り扱いなどの基礎的なことや検査に際しての注意事項、内視鏡センターの運営、リスクマネジメントなど安全な検査を行うための心得も記述されている。また、検査の実際、治療手技などは動画的なイラストも採り入れ、観察・撮影・手技のコツを丁寧に説明している。後編は疾患の解説になり、咽頭や食道などの解剖および生理学なども詳細なシェーマが添えられわかりやすく示されている。疾患も多数の写真とシェーマを載せ、さらに症例ごとに具体的な経験を加えて解説されており、内視鏡技師にも理解しやすい構成になっている。

本書は医師のみならずコメディカル・スタッフにとっても日常診療のテキストとして、また内視鏡技師試験受験の教科書、参考書として必携である。